



研究者名※	魚住 智広 UOZUMI Tomohiro	学位※	博士(教育学)
所属※	人間社会学部 現代社会学科	職名※	助教
連絡先	uozumit@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/tomouozumi		
研究分野※	複合領域、健康・スポーツ科学、スポーツ科学		
研究キーワード※	スポーツ社会学		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等			
受賞歴			

研究領域	スポーツ社会学	(SDGs)
研究テーマ※	少子化地域における若者のスポーツに関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 2019年、国内出生数は統計開始以降はじめて90万人を割り込み、86万5239人となりました。翌年にはこの「86万ショック」からさらに減り、約84万人となっています。将来的にさらに少子化が進むと予測されるなかで、とりわけ地方でどのようにスポーツを営むことができるのかについて、若者たちの視点から検討しています。</p> <p>【応用例、研究の展望】 これまで、この国のスポーツ(たとえば部活動)は若者が溢れていることを前提にして運営されてきました。今後その前提が崩れると、若者がスポーツの機会を得るために新たなモデルを考えていく必要があります。しかし、現存する環境を性急に民営化したり外部化したりする方法では、今を生きる若者たちにとって重要な意味を持つ空間を壊しかねません。そのため、規模が小さくなくても持続できる、強固なメンバーシップ性を必要としないスポーツの形が求められると考えています。</p> <p>【研究方法の特色】 参与観察およびインタビューを主な手法としています。これまでは北海道の高校サッカー部のなかに数年にわたって入り込み、調査を進めてきました。小規模化した運動部活動は、この国のスポーツの行く末として位置づけることもできますが、そこで活動する若者たちの論理には将来のスポーツへのヒントがあるのではないかと捉えています。</p>	
本研究関連 特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・魚住智広, 2021, 小規模の部活動における生徒たちの目標設定とその困難性: 競技スポーツにともなう勝敗の観点から, 国際武道大学研究紀要, 37:41-50 ・魚住智広, 2018, 運動部活動と対外試合への参加条件に関する社会学的分析: 札幌地区の高校サッカー大会を事例に, 北海道大学大学院教育学研究院紀要, 133:1-22 ・魚住智広, 2017, 小規模の運動部活動はいかにして存続するのか: 生徒の分極化に着目して, スポーツ社会学研究, 25(2):55-69 	
共同研究・外部機関 との連携への期待		